

# **PRIMERGY オプション製品**

---

## **システム構成図(留意事項編)**

## サーバ監視ソフト ServerViewについて

サーバ監視ソフトServerViewでは以下のような機能があります。

[ Windows Server 2003/Windows2000/WindowsNT ]

項目	ServerView
主な機能	サーバ状態監視 異常通知 電源投入/切断スケジュール(一部未サポートモデルあり) パフォーマンス監視 (CPU負荷率、PCIバス負荷率など)
アラート機能 (異常通知方法)	インターネットメール送信 SNMPトラップ送信 メッセージボックス(監視対象サーバ上、管理サーバ上) ポケベル プログラム起動 接続クライアントへブロードキャスト
リモートサービスボード(PG-RSB101)サポート	
使用メモリ	16～32MB

サーバ異常検出時のメッセージボックスは、サーバにログオンしていないと表示されません。  
ログオンしていないときに発生した異常は、インターネットメール、SNMPトラップにて通知することができます。  
また、イベントログにて発生を確認することができます。

[ Red Hat Linux ] (Turbolinuxでは使用できません)

項目	Linuxサーバ上	監視用Windows端末
主な機能	サーバ状態監視 異常通知 * Web Extension使用による	サーバ状態監視 電源投入/切断 スケジュール運転設定 * モデルによる パフォーマンス監視 (CPU負荷率、PCIバス負荷率など) しきい値マネージャは使用できません。
アラート機能 (異常通知方法)	インターネットメール送信 SNMPトラップ送信	インターネットメール送信 SNMPトラップ送信 メッセージボックス ポケベル プログラム起動 接続クライアントへブロードキャスト
リモートサービスボード(PG-RSB101)サポート		-
使用メモリ	32MB以上	16～32MB

\*LinuxサーバよりSNMPトラップを受信しての処理となる

## カスタムメイド出荷について

カスタムメイド出荷とは、ハードウェアの標準構成をメモリ/ディスク等のオプションごとにお客様の仕様に合わせて追加/変更し、本体に実装して出荷することのできる形態です。

カスタムメイド出荷により、お客様のシステム規模/予算にあった最適なシステム構成での導入が可能となります。

## 1. カスタムメイド出荷対象製品の製品構成について

カスタムメイド出荷対象製品の製品構成は、「基本タイプ(本体)」と「カスタムメイドオプション」から構成されます(下図参照)。それ以外の製品に関しては、従来通り、製品単位で出荷されます。

[ カスタムメイド出荷適用範囲 ]

[ 基本タイプ(本体) ]

(1) 筐体+CPU+  
メモリ  
を中心に構成

+

[ カスタムメイドオプション ]

(2) 空きスロットへの実装オプション  
(3) 基本タイプに実装されているメモリ、ディスク  
の交換オプション

+

[ その他 ]

ソフト、  
外付OP、  
その他

=

出  
荷

[ カスタムメイド適用製品一覧 ]

## (1) 基本タイプ(本体)

ECONEL 30/TX150/TX200/TX600/RX100/RX200/RX300/RX800/BX300の全タイプが対象となります。  
(TX200FT/オールインワンタイプを除く。)

## (2) カスタムメイドオプション：空きスロットへの実装オプション

PRIMERGY専用の内蔵オプションが対象となります。(注：FMVとの共通製品等を除く。)

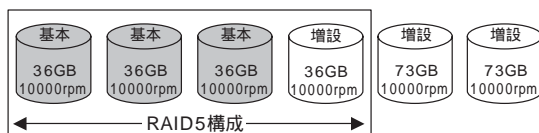
## (3) Linuxインストール代行サービスバンドルタイプ

Linuxインストール代行サービスバンドルタイプは一部オプションのみカスタムメイド対象となります。適用可能オプションは各本体樹系図の「Linuxインストール代行サービスバンドルタイプのカスタムメイド対応について」を参照下さい。

## 2. アレイタイプにおけるオプションHDDのカスタムメイド出荷について(オールインワンタイプを除く)

アレイタイプでオプションHDDを手配した場合、基本HDD、および基本HDDと同一容量/同一回転数/同一型名のオプションHDDはRAID5で構成されます。  
それ以外のオプションHDDは初期化されておりませんので初期化処理を行ってからご使用ください。

[例]



## ハードディスク関連事項

### ハードディスクの選択基準について

#### ハードディスク選択におけるガイドライン

IAサーバに対して高可用性と高信頼性を求められる場面が増加しており、これに応えていくためには高負荷連続運転に適したSCSIハードディスクの選択を基本にご検討いただきますようお願いいたします。

#### ・ハードディスクはSCSIを第一優先

SCSIハードディスクはエンタープライズ用として、ディスクの構造についても剛性を高め、過酷な使用環境も意識した設計となっているため、サーバ運用環境ではこれを推奨します。

#### ・IDEハードディスク選択時のシステム構成について

IDEハードディスクを使用する場合にはIDE RAIDを適用し、信頼性向上を図ってください。

#### ・システム構成の選択について

システム構成の選択については以下のSCSIハードディスクとIDEハードディスクの仕様比較およびRAID構成を含めた選択基準を参照願います。

#### SCSIハードディスクとIDEハードディスクの仕様比較

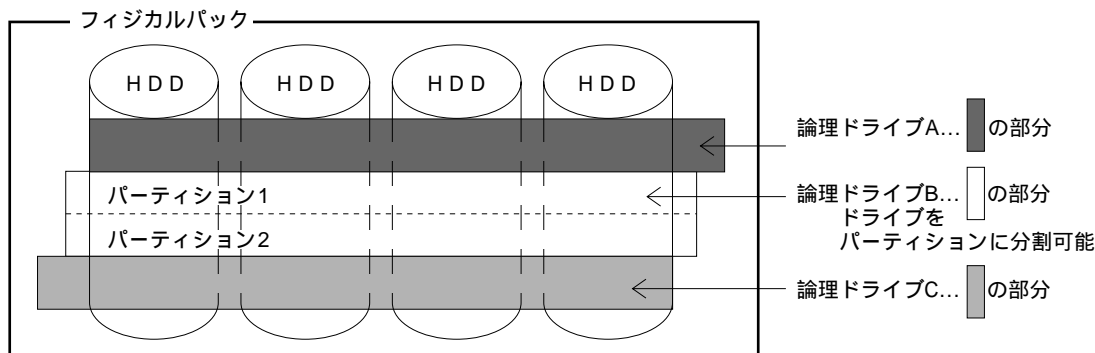
		SCSIハードディスク	IDEハードディスク
性能		320MB/s 10,000/15,000rpm	100MB/s 7,200rpm
機能		Hot Plug	Non Hot Plug
RAS 機能	単体	ディスク自身でのエラー回復機能	ディスク自身でのエラー回復機能
	RAID	RAIDからもきめの細かいエラーリカバリが可能 ・エラー情報の充実 ・不良ブロック交代コマンド 他	RAIDからの機能範囲は限定
RAIDサポート 形態		・ファームによるRAID( CPU負荷小 ) ・高機能( RAID0+1/1/5 ) ・拡張性( 2TB、1/2/4ch ) ・専用キャッシュ( 128MB )( 高性能 )	・ドライバによるRAID( CPU負荷大 ) ・RAID1 ・内蔵ディスクのみ( 120GB×2 ) ・専用キャッシュなし

#### RAID構成を含めた選択基準

		SCSIハードディスク		IDEハードディスク	
		SCSI RAID	SCSI単体	IDE RAID	IDE 単体
システムの運用継続性					
単体ディスク 故障時 ディスク交換時 (無停止)			×		×
		(Hot Plugあり)	×	×	×
24時間運用に対する適性					
24時間運用		推奨			
8～10時間運用		推奨		推奨	

## ディスクアレイ構成の考え方

- ・フィジカルバック・・・1つのRAIDを構成する物理的なHDDの集まり。
- ・論理ドライブ・・・ネットワークOSがドライブとして認識できるドライブ。
- ・パーティション・・・ネットワークOSで設定する論理ドライブを分割したアクセス論理単位。

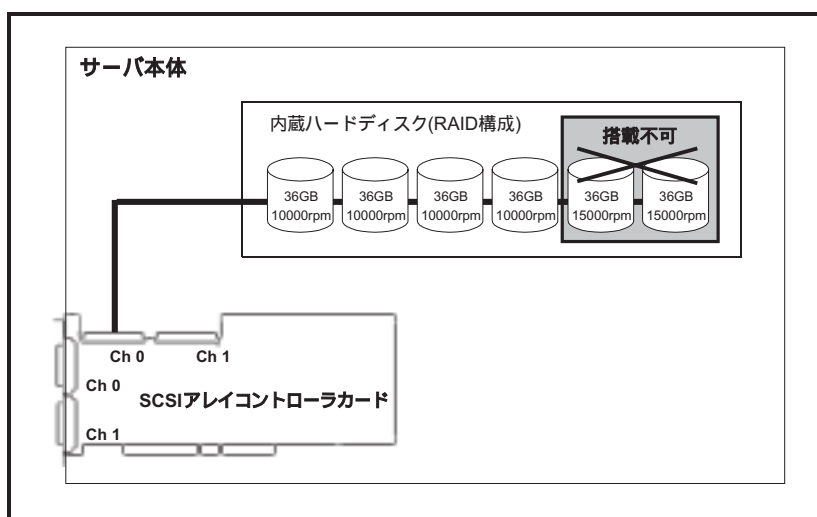


## &lt; 構成規則について &gt;

- (1) フィジカルバックは必ず同じ型名のハードディスクユニットで構成してください。
- (2) フィジカルバックを構築する場合、合計サイズが2TBを越えないように設定してください。  
一つの論理ドライブの最大サイズは、2TBとなります。(ただし、Linuxにおいては一つの論理ドライブの最大サイズは1TB未満となります。)  
PG-140C/140CL/142B/142C/142Dの場合は、フィジカルバック内に複数の論理ドライブを作成できません。  
フィジカルバック容量と論理ドライブ容量は常に同一となります。
- (3) 一つのフィジカルバックを構成するハードディスクユニットの台数は以下のとおりです。
 

・ RAID0	(性能向上のために、データを複数ディスクへ分割して書込む方式)	— 2 ~ 16台	[ 論理ドライブの実効データ容量は接続したディスク容量の総和 ]
・ RAID1	(信頼性向上のために、ディスクを二重化し同一データを書込む方式)	— 2台	[ 論理ドライブの実効データ容量は接続したディスク容量の1/2 ]
・ RAID5	(信頼性向上のために、データを分割しパリティを加えて書込む方式)	— 3 ~ 16台	[ 論理ドライブの実効データ容量は(接続したディスク台数 - 1)台分 ]
・ RAID6/0+1	(信頼性向上のために、データを二重化かつ分割して書込む方式)	— 3 ~ 16台	[ 論理ドライブの実効データ容量は接続したディスク容量の1/2 ]

PG-140C/140CL/142B/142C/142D/142EのRAID0+1は4 ~ 16台で偶数のみ構成可。  
1台のハードディスクでフィジカルバックを構成することはできません。
- (4) 一つのフィジカルバックを複数の論理ドライブに分割した場合の各論理ドライブのRAIDレベルは同じもののしか設定できません。
- (5) 一つのフィジカルバックは必ず、同一のアレイカードにつながるハードディスクで構成してください。
- (6) 1枚のアレイカードで複数のフィジカルバックを設定することが可能です。但し、ハードディスクユニットは以下の条件を満たす必要があります。
  - ・ フィジカルバックは同型名のハードディスクで構成する。
  - ・ 複数のフィジカルバックを同容量のハードディスクで構成する場合は、すべて同型名のハードディスクで構成する。
- (7) 1枚のアレイカードでRAIDレベルの異なる複数のフィジカルバックを混在させた設定も可能です。
- (8) 異なる型名のハードディスクを使用して複数のフィジカルバックを構成し、スペアディスクを設定する場合には各々のフィジカルバックに対して、同型名のスペアディスクを最低1台設定して下さい。
- (9) 1枚のアレイカード内で、同容量でかつ回転数の異なるハードディスクを混在させることはできません。



## ハードディスクキャビネット / SCSIアレイコントローラカード / SCSIカードの注意

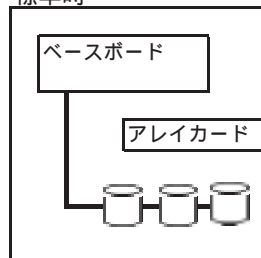
ハードディスクキャビネットについて

OSは必ずサーバ本体に内蔵ハードディスクにインストールすること

SCSIケーブル接続機構(PGBCBLS012)について

TX200/TX600/RX300/RX800のディスクレスタイプにSCSIアレイコントローラカードをカスタムメイドで手配する場合、SCSIケーブル接続機構(PGBCBLS012)が必須となります。ただし、TX200でPGB140C、RX300でPGB140CLを手配する際はSCSIケーブル接続機構は不要です。

標準時



SCSIアレイコントローラカードをカスタムメイドで手配しても、SCSIケーブルはオンボードSCSIに接続されています。

SCSIケーブル接続機構適用時



SCSIケーブル接続機構を適用するとSCSIケーブルはSCSIアレイコントローラカードに接続されます。

SCSIアレイコントローラカード[PG-140C / 140CL]について

SCSIアレイコントローラカードはサーバ本体1台につき1枚のみ搭載可能です。

SCSIアレイコントローラカードに接続可能なハードディスクはサーバ本体に内蔵ハードディスクのみです。

サーバ本体に内蔵ハードディスクはサーバのオンボードSCSIを使用して接続します。

SCSIアレイコントローラカード[PG-140C / 140CL / 142B / 142C / 142D]について

以下を制限とします。(制限解除時期：後報)

- ・ Expand Array (フィジカルバックの容量拡張)

Linux環境ではRX200においてPG-140CLとPG-142Bの同時搭載はできません。

SCSIアレイコントローラカード[PG-142E]について

RAID0/1/5において、フィジカルバックに論理ドライブが1つだけ存在する場合のみフィジカルバックの容量拡張機能が使用可能です。

(Windows Server™2003/Windows2000のみサポート)

SCSIアレイコントローラカード[PG-144C]について

異なる容量のハードディスクを使用して複数のフィジカルバックを構成し、ホットスペアディスクを設定する場合は、最も小さな容量のハードディスクに対してのみ設定可能です。

## SCSIアレイコントローラカード接続方法

：接続可能、×：接続不可

SCSIアレイコントローラカード (0ch) 接続先	PG-140C			PG-140CL		
	内蔵ハードディスク	ハードディスク キャビネット	内蔵ハードディスク/ ハードディスク キャビネット同時(*1)	内蔵ハードディスク	ハードディスク キャビネット	内蔵ハードディスク/ ハードディスク キャビネット同時(*1)
ECONEL 30	×	×	×	×	×	×
TX150	(*2)	×	×	×	×	×
TX200	標準ドライブケース	×	×	×	×	×
	基本ドライブケース交換機構適用時	×	×	×	×	×
	標準ドライブケース + 内蔵ハードディスクベイ交換機構適用時	×	×	×	×	×
TX600	×	×	×	×	×	×
RX100	×	×	×	×	×	×
RX200	×	×	×		×	×
RX300	標準ドライブケース	×	×		×	×
	標準ドライブケース + 基本カードスロット交換機構適用時	×	×	×	×	×
	基本ドライブケース交換機構適用時	×	×		×	×
	基本ドライブケース交換機構 + 基本カードスロット交換機構適用時	×	×	×	×	×
		×	×	×	×	×
RX800	×	×	×	×	×	×
BX300	×	×	×	×	×	×

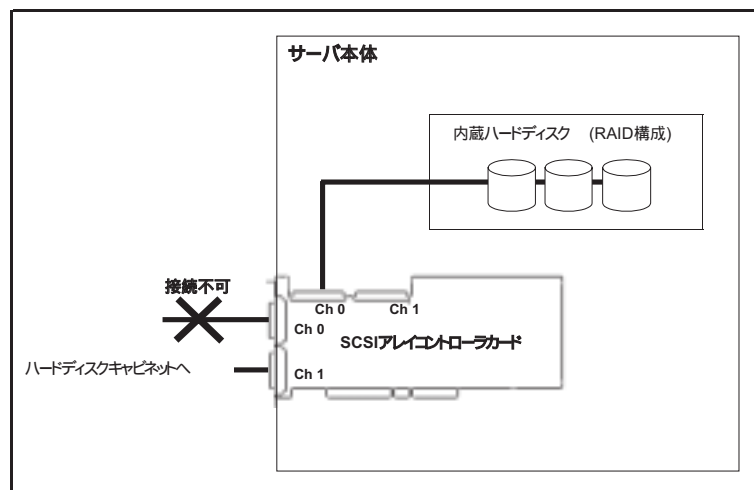
SCSIアレイコントローラカード (2ch) 接続先	PG-142B			PG-142C			PG-142D		
	内蔵ハードディスク	ハードディスク キャビネット	内蔵ハードディスク/ ハードディスク キャビネット同時(*1)	内蔵ハードディスク	ハードディスク キャビネット	内蔵ハードディスク/ ハードディスク キャビネット同時(*1)	内蔵ハードディスク	ハードディスク キャビネット	内蔵ハードディスク/ ハードディスク キャビネット同時(*1)
ECONEL 30	×	×	×	×	×	×	×	×	×
TX150	×	×	×	×	×	×	×	×	×
TX200	標準ドライブケース	×	×	×		×	×	×	×
	基本ドライブケース交換機構適用時	×	×	×		×	×	×	×
	標準ドライブケース + 内蔵ハードディスクベイ交換機構適用時	×	×	×		×	×	×	×
		×	×	×		×	×	×	×
TX600	×	×	×	×	×	×	×	×	×
RX100	×	×	×	×	×	×	×	×	×
RX200	×		×	×	×	×	×	×	×
RX300	標準ドライブケース	×	×	×	×	×	×	×	×
	標準ドライブケース + 基本カードスロット交換機構適用時	×	×	×	×		×	×	×
	基本ドライブケース交換機構適用時	×	×	×		×	×	×	×
	基本ドライブケース交換機構 + 基本カードスロット交換機構適用時	×	×	×		×	×	×	×
		×	×	×		×	×	×	×
RX800	×	×	×	×	×	×			
BX300	×	×	×	×	×	×	×	×	×

SCSIアレイコントローラカード (2/4ch) 接続先	PG-142E			PG-144C		
	内蔵ハードディスク	ハードディスク キャビネット	内蔵ハードディスク/ ハードディスク キャビネット同時(*1)	内蔵ハードディスク	ハードディスク キャビネット	内蔵ハードディスク/ ハードディスク キャビネット同時(*1)
ECONEL 30	×	×	×	×	×	×
TX150	×	×	×	×	×	×
TX200	標準ドライブケース	(*3)	(*3)	×	×	×
	基本ドライブケース交換機構適用時	(*3)	×	×	×	×
	標準ドライブケース + 内蔵ハードディスクベイ交換機構適用時	(*3)	×	×	×	×
TX600			×	×		×
RX100	×	×	×	×	×	×
RX200	×	(*3)	×	×	×	×
RX300	標準ドライブケース	×	×	×	×	×
	標準ドライブケース + 基本カードスロット交換機構適用時	×	×	×	×	×
	基本ドライブケース交換機構適用時	×	×	×	×	×
	基本ドライブケース交換機構 + 基本カードスロット交換機構適用時	×	×	×	×	×
		×	×	×	×	×
RX800				×	×	×
BX300	×	×	×	×	×	×

- \*1：1枚のSCSIアレイコントローラカードで内蔵ハードディスクおよびハードディスクキャビネットを同時接続する場合は、「SCSIアレイコントローラカードの内蔵ハードディスク/ハードディスクキャビネット同時接続について」を参照下さい。
- \*2：SCSIタイプのみ接続可能。
- \*3：搭載できない機種があります。詳細は「樹系図」を参照願います。

### SCSIアレイコントローラカードの内蔵ハードディスク / ハードディスクキャビネット同時接続について

1枚のSCSIアレイコントローラカードで内蔵ハードディスク / ハードディスクキャビネットを同時接続する場合には、内蔵ハードディスクとハードディスクキャビネット接続用にそれぞれチャンネルを分ける必要があります。同一チャンネルにおける内蔵ハードディスク / ハードディスクキャビネットの同時接続はできません。



### SCSIカード[PG-128/130L]について

本カード 1 枚に外付SCSI装置と内蔵SCSI装置を同時に接続することはできません。

その際は、カードを分けて接続してください。

本カード 1 枚に接続できる外付けSCSI装置の台数は、

- (1) バックアップキャビネットを除く外付けSCSI装置は最大 4 台までのデジチェーン接続が可能です (DATユニット(DDS4)/DATオートチェンジャ(DDS4)は2台まで、カートリッジテープ装置はデジチェーン接続不可)。

### SCSIカード[PG-129B]について

: 本カードは内蔵SCSI装置にのみ接続可能です。

## SCSIアレイコントローラカードのサポートOS

SCSIアレイコントローラカードのサポートOSは以下のとおりです。

: サポート、×: 未サポート

OS	SCSIアレイコントローラカード						
	PG-140C	PG-140CL	PG-142B	PG-142C	PG-142D	PG-142E	PG-144C
Windows Server™ 2003, Standard Edition							
Windows Server™ 2003, Enterprise Edition							
Windows®2000 Server							
Windows®2000 Advanced Server							
WindowsNT®Server 4.0		×	×		×	×	×
WindowsNT®Server 4.0, Enterprise Edition		×	×		×	×	×
Windows® Small Business Server 2003		×	×	×	×	×	×
Small Business Server 2000	×	×	×	×	×	×	×
Red Hat Linux 8.0 (*1)					×		×
Red Hat Linux 9 (*1)					×		×
Red Hat Enterprise Linux ES (v. 2.1) (*1)					×		×
Red Hat Enterprise Linux ES (v. 3) (*1)					×		×
Red Hat Enterprise Linux AS (v. 2.1) (*1)							×
Red Hat Enterprise Linux AS (v. 3) (*1)							×
Turbolinux 8 Server		×	×		×	×	×

\*1: 既にLinuxサービスバンドルタイプをご使用中のお客様が本SCSIアレイコントローラカードを増設される場合、

本体に同梱されているドライバおよびRAID管理ツール をご使用ください。

またHDタイプ/ディスクレスタイプにおいてLinuxをご使用される場合、必要なドライバおよびRAID管理ツールはFMWORLD.NETよりダウンロードしてください。

接続可能なハードディスクキャビネット数について

ハードディスクキャビネット			ECONEL 30	TX150	TX200	TX600	RX100	RX200	RX300	RX800	BX300
	型名	チャネル数									
PRIMERGY SX30 (ラックマウント)	PG-R1DC7	2	-	-	2	8 (*1)	-	2	2	5	-
PRIMERGY SX30 (ベディスタル)	PG-DC107	2	-	-	2	8 (*1)	-	-	-	-	-

\*1) Linuxで使用する場合は、最大4台までの接続となりますので注意願います。

S.M.A.R.T.機能について

S.M.A.R.T.対応

: S.M.A.R.T.対応, x : S.M.A.R.T.未対応, - : 接続できません

接続形態	内蔵ハードディスクユニット										ハードディスクキャビネット				
	IDEハードディスク		SCSIハードディスク								SCSIハードディスク				
	標準搭載 IDE	標準搭載 アレイコントローラ	SCSIアレイコントローラカード								SCSIアレイコントローラカード				
			標準搭載 アレイコントローラ	PG-140C	PG-140CL	PG-142B	PG-142C	PG-142D	PG-142E	PG-144C	PG-142B	PG-142C	PG-142D	PG-142E	PG-144C
ECONEL 30			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
TX150					-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
TX200	-	-			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
TX600	-	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	×
RX100	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RX200	-	-		-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RX300	-	-		-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RX800	-	-	-	-	-	-	-			-	-	-			-
BX300	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

注) S.M.A.R.T.機能にはServerViewが必要です。S.M.A.R.T.機能はLinuxでは未サポートです。

メモリ関連事項

OSにおける使用可能メモリ容量について

OSにより使用可能なメモリ容量が異なりますので、ご注意ください。使用可能メモリ容量は以下の通りです。  
(搭載可能なメモリ容量およびサポートOSは機種により異なります。)

OS	使用可能メモリ容量
Windows Server™ 2003, Standard Edition	4GB
Windows Server™ 2003, Enterprise Edition	32GB
Windows®2000 Server	4GB
Windows®2000 Advanced Server	8GB
Windows® Small Business Server 2003	4GB
Small Business Server 2000	4GB
Red Hat Linux 8.0	16GB
Red Hat Linux 9	16GB
Red Hat Enterprise Linux ES (v. 2.1)	4GB
Red Hat Enterprise Linux ES (v. 3)	8GB
Red Hat Enterprise Linux AS (v. 2.1)	16GB
Red Hat Enterprise Linux AS (v. 3)	64GB
Turbolinux 8 Server	64GB



## システム構成図留意事項

## S C S I 装 置 ( バ ッ ク ア ッ プ ) 関 連 事 項

## バックアップ装置のサポートOSと使用するソフトウェア一覧

バックアップ装置	装置型名	規格	記憶容量 (GB)	処理速度 (MB/s)	WindowsNT® Server 4.0/ Enterprise Edition		Windows®2000 Server/ Advanced Server		Small Business Server 2000	Windows Server™ 2003, Standard Edition/ Enterprise Edition		Windows® Small Business Server 2003	備考					
					NTBACKUP	BrightStor™ ARCserve® Backup v9	NTBACKUP	BrightStor™ ARCserve® Backup v9	NTBACKUP	NTBACKUP	BrightStor™ ARCserve® Backup v9	NTBACKUP						
VXA 装置	PG-VX201	VXA-2	80	6.0	Server Start		Server Start		Server Start	Server Start		Server Start	・定期的なクリーニング必須					
LTO 装置	PG-LT101	LTO ( Ultrium1 )	100	7.5	×		×	×					・高信頼性が必要な基幹業務に適している					
	PGSLT101																	
	PG-LTL102	LTO ( Ultrium1 ) ライブラリ	1000	15								×	×	×	×	×	×	・高信頼性が必要な基幹業務に適している ・自動バックアップ処理可能
	LT13**A*		3000 ↓ 6000															
	LT13**B*		LTO (Ultrium2) ライブラリ															
DAT 装置	PG-DT501	DAT72	36	3.0	Server Start		Server Start		Server Start	Server Start		Server Start	・定期的なクリーニング必須					
	PG-DT401	DDS4	20		装置添付 ドライブ使用													
	GP5SDT401																	
	PG-DT402			2.75	Server Start	Server Start	Server Start	×	×	×								
	PG-DT402D	×	×															
	PG-DTA102	DDS4 オート チェンジャ	120	3.0	×	×	×	×	×	・定期的なクリーニング必須 ・自動バックアップ処理可能								
	GP5SDTA102																	

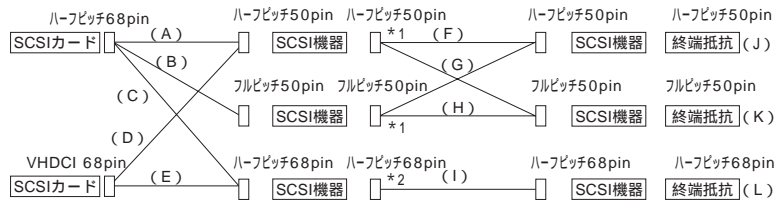
バックアップ装置	装置型名	規格	記憶容量 (GB)	処理速度 (MB/s)	Red Hat Enterprise Linux				Red Hat Linux 9		Red Hat Linux 8.0		Turbolinux 8 Server	備考						
					AS (v. 3)	ES (v. 3)	AS (v. 2.1)/ ES (v. 2.1)		NetVault 7	BrightStor™ ARCserve® Backup v9	NetVault 7	BrightStor™ ARCserve® Backup v9	NetVault 6.5 Turbolinux Edition							
					NetVault 7	NetVault 7	NetVault 7	BrightStor™ ARCserve® Backup v9												
VXA 装置	PG-VX201	VXA-2	80	6.0							×	×		・定期的なクリーニング必須						
LTO 装置	PG-LT101	LTO ( Ultrium1 )	100	7.5									×	・高信頼性が必要な基幹業務に適している						
	PGSLT101																			
	PG-LTL102	LTO ( Ultrium1 ) ライブラリ	1000	15										×	×	×	×	×	×	・高信頼性が必要な基幹業務に適している ・自動バックアップ処理可能
	LT13**A*		3000 ↓ 6000																	
	LT13**B*	LTO (Ultrium2) ライブラリ	6000 ↓ 12000	30			×	×												
DAT 装置	PG-DT501	DAT72	36	3.0							×	×	×	・定期的なクリーニング必須						
	PG-DT401	DDS4	20								2.75	×			×	×	×			
	GP5SDT401																			
	PG-DT402																			
	PG-DT402D										×									
	PG-DTA102	DDS4 オートチェンジャ	120	3.0										×	・定期的なクリーニング必須 ・自動バックアップ処理可能					
	GP5SDTA102																			

記録容量/処理速度は非圧縮時の値。

NTBACKUPでバックアップした場合、各装置の処理速度よりも遅くなる場合があります。処理性能を重視される場合にはARCserveの使用をお勧めします。

SCSI機器の接続について

1. SCSIケーブル/終端抵抗について
- 外付けSCSI機器を接続する場合、SCSIカード / SCSI機器のコネクタの形状により使用するSCSIケーブル / 終端抵抗が異なりますのでご注意ください。
- ・ハードディスクキャビネット、バックアップキャビネットの接続については、各構成図を参照してください。
  - ・LTOライブラリ装置（100GB×30および200GB×30）、カートリッジテープ装置については、各構成図を参照してください。



- \* 1 : ハーフピッチ50pinもしくはフルピッチ50pinのSCSI機器に、ハーフピッチ68pinのSCSI機器をデジチェーン接続することはできません。
- \* 2 : ハーフピッチ68pinのSCSI機器に、ハーフピッチ50pinもしくはフルピッチ50pinのSCSI機器をデジチェーン接続することはできません。

	品 名	型 名	コネクタ	線 長
(A)	SCSIケーブル	GP5-833	ハーフ68pin-ハーフ50pin	1m
(B)	SCSIケーブル	GP5-832	ハーフ68pin-フル50pin	1m
(C)	-----	SCSI機器添付	ハーフ68pin-ハーフ68pin	
(D)	SCSIケーブル	GP5-844	VHDCI68pin-ハーフ50pin	2m
(E)	SCSIケーブル	GP5-846	VHDCI68pin-ハーフ68pin	2m
(F)	SCSIケーブル	FMV-CBL832	ハーフ50pin-ハーフ50pin	1m
(G)	SCSIケーブル	FMS-834 FMV-CBL831	フル50pin-ハーフ50pin フル50pin-ハーフ50pin	1m 2m
(H)	SCSIケーブル	FMB-CBL831 FMB-CBL832	フル50pin-フル50pin フル50pin-フル50pin	1m 2m
(I)	-----	SCSI機器添付	ハーフ68pin-ハーフ68pin	
(J)	終端抵抗	FMV-695	ハーフ50pin	
(K)	終端抵抗	FMV-692	フル50pin	
(L)	-----	SCSI機器添付	ハーフ68pin	

2. SCSI機器の接続台数について
- (1) SCSI-2対応装置を接続する場合
- 外付けSCSI機器は最大4台までデジチェーン接続可能（ケーブル長は合計5m以下とする）
- (2) UltraSCSI対応装置を接続する場合
- 外付けSCSI機器は最大2台までデジチェーン接続可能（ケーブル長は合計2m以下とする）
- 同一のSCSIカードに対して、外付けSCSI機器と内蔵SCSI機器とを同時に接続することを禁止する。
- LTOライブラリ装置はデジチェーン接続不可。
- GP5-844、FMV-CBL831およびFMB-CBL832（SCSIケーブル、2m）を使用する場合は、SCSI機器を2台接続したとみなし、接続できるSCSI機器の台数は少なくなります。

## Linux関連事項

## Linuxインストール代行サービスバンドルタイプについて

Linuxインストール代行サービスバンドルタイプでは、Linux OSをお客様に代わってインストールするサービス[インストール代行サービス]をPRIMERGYにバンドルして出荷いたします。

## Linuxシステムにおけるバックアップソフト

Linuxにおいてバックアップ装置をご使用になる際には、以下のソフトウェアがご使用いただけます。

ディストリビューション	単体バックアップ装置	ライブラリ系バックアップ装置
Turbolinux 8 Server	NetVault 6.5 Turbolinux Edition	
Red Hat Linux 8.0	NetVault 7/BrightStor™ ARCserve® Backup v9	NetVault 7/BrightStor™ ARCserve® Backup v9
Red Hat Linux 9	NetVault 7/BrightStor™ ARCserve® Backup v9	NetVault 7/BrightStor™ ARCserve® Backup v9
Red Hat Enterprise Linux ES (v.2.1)	NetVault 7/BrightStor™ ARCserve® Backup v9	NetVault 7/BrightStor™ ARCserve® Backup v9
Red Hat Enterprise Linux ES (v.3)	NetVault 7	NetVault 7
Red Hat Enterprise Linux AS (v.2.1)	NetVault 7/BrightStor™ ARCserve® Backup v9	NetVault 7/BrightStor™ ARCserve® Backup v9
Red Hat Enterprise Linux AS (v.3)	NetVault 7	NetVault 7

## Linuxシステムにおけるメモリ搭載、ブロックデバイスの使用可能サイズについて

Linuxシステムではディストリビューションにより最大搭載メモリ容量、ブロックデバイスの使用可能最大サイズが以下ようになります。

ディストリビューション	最大搭載メモリ容量	ブロックデバイスの使用可能最大サイズ
Turbolinux 8 Server	64GB	1TB未満
Red Hat Linux 8.0	16GB	1TB未満
Red Hat Linux 9	16GB	1TB未満
Red Hat Enterprise Linux ES (v.2.1)	4GB	1TB未満
Red Hat Enterprise Linux ES (v.3)	8GB	1TB未満
Red Hat Enterprise Linux AS (v.2.1)	16GB	1TB未満
Red Hat Enterprise Linux AS (v.3)	64GB	1TB未満

## ディスクレスタイプ/HDタイプのサポートについて

ディスクレスタイプ/HDタイプにおけるLinux関連情報については、弊社HP(<http://www.fmworld.net/biz/primergy/linux/>)を参照下さい。また、サポートを必要とされるお客様につきましては、別途SupportDeskを契約して下さい。

サポート対象ディストリビューション( )

- Turbolinux 8 Server
- Red Hat Linux 8.0
- Red Hat Linux 9
- Red Hat Enterprise Linux ES (v.2.1)
- Red Hat Enterprise Linux ES (v.3)
- Red Hat Enterprise Linux AS (v.2.1)
- Red Hat Enterprise Linux AS (v.3)

サポートディストリビューションは、本体装置により異なります。

## LinuxシステムにおけるRAID構成について

- ・RX200においてPG-140CLとPG-142Bの同時搭載はできません。
- ・ECONEL 30においてPG-1E2Bの最大搭載枚数は標準搭載を含め1枚です。

## Linuxシステムにおけるスケジュール運転機能について

- ・RX800においてUPSによるスケジュール運転は未サポートです。スケジュール運転を行う場合はリモートサービスボード(標準搭載)による設定が必要です。ただし、停電時は手でサーバの電源を投入する必要がありますのでご注意願います。

## BX300におけるサポートディストリビューションについて

- ・BX300ではRed Hat Enterprise Linux ES (v. 2.1)およびRed Hat Enterprise Linux ES (v. 3)が適用できない機種がありますのでご注意願います。

< Red Hat Enterprise Linux ES (v. 2.1)およびRed Hat Enterprise Linux ES (v. 3)が適用できない  
BX300サーバブレード型名 >  
PGXAA1\*\*\*\*/ PGXAJ2\*\*\*\*/ PGX3011\*\*\*\*/ PGX3012\*\*\*\*